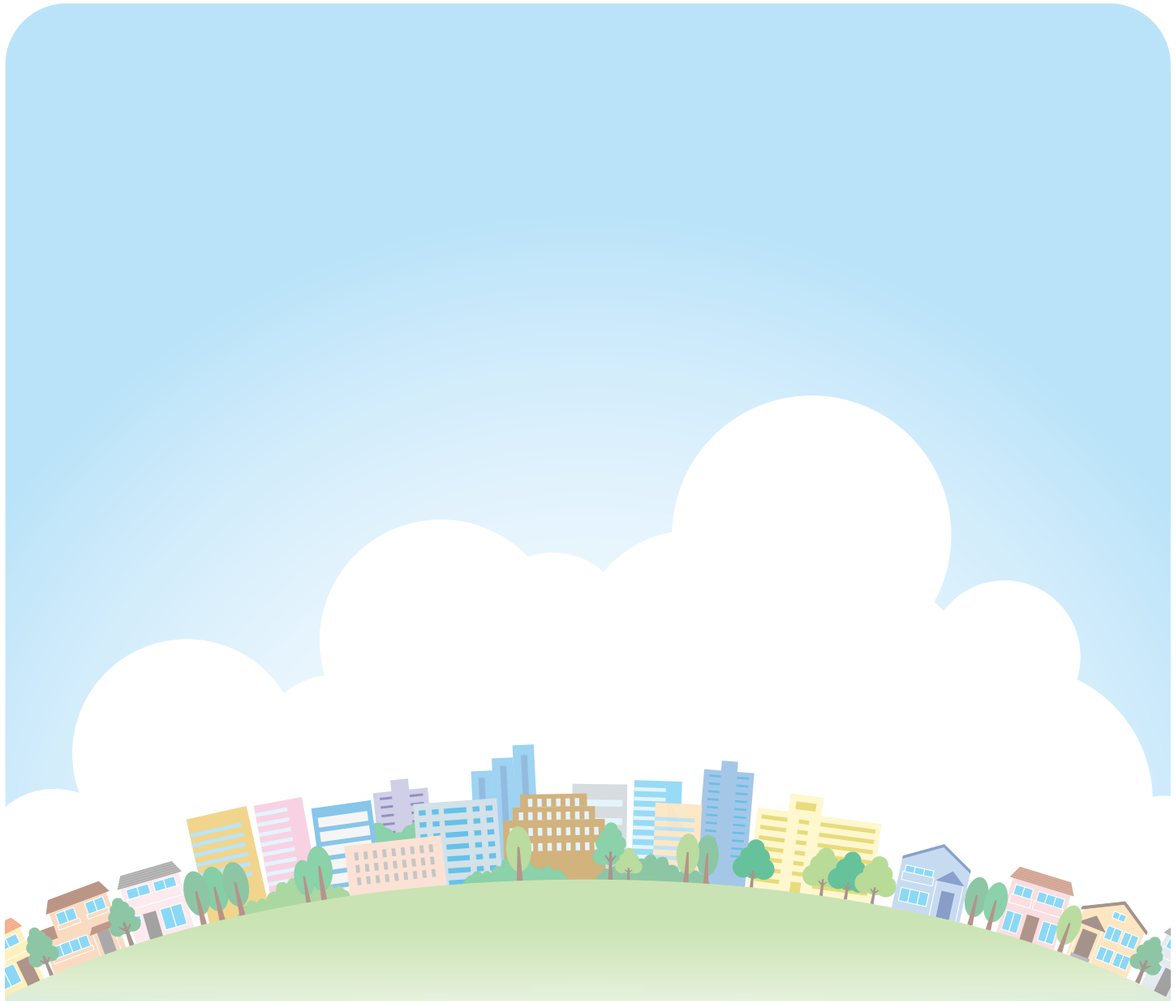


発行日：2015年3月23日
発行：特定非営利活動法人　男女・子育て環境改善研究所
〒810-0041　福岡市中央区大名2-11-22
TEL: 092-718-8010　FAX: 092-718-8011
info@kosodate-npo.jp
http://www.kosodate-npo.jp

協力：日本防災士会久留米支部、親と子のひろば はらっぱSUN
独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

子どもと家族と地域の命を守る減災防災事業

～親子ミニ防災教室を中心に～

特定非営利活動法人　男女・子育て環境改善研究所

はじめに

2005年3月に発生した「福岡県西方沖地震」をきっかけに、福岡でも「防災・減災」のための様々な研修や訓練が行われています。小さな子どもがいる保護者も、「防災のために何かしておかなくては」と学ぶ機会を求めていますが、一般住民を対象としたものは、託児がなかったり、開催時間が休日や夜間だったりして、子どもをつれての参加は難しいのです。

その結果、防災減災の備えの大切さがずっと言われているにもかかわらず、「非常持ち出し品を準備している」というのは、10名に1名程度というのが現状です。

そこで私たちは、乳幼児がいる保護者を対象に、いつ来るかわからない災害に対して、日頃から行っておきたい減災防災の備えについて学ぶ場を提供し、実際の備えを多くの方にしてほしいと考え、日本防災士会久留米支部、親と子のひろばはらっぱSUNと協働して、「子どもと家族と地域の命を守る減災防災事業」に取り組みました。

CONTENTS

子どもと家族と地域の命を守る減災防災事業の紹介 ―― 01

「親子ミニ防災教室」の開催 ―― 02

減災防災の備えリーフレット「『その時』助かる!」の制作と配布 ―― 12

「どうする?! 子育て世代への防災支援
～東北被災地の子育て家族支援から学ぶ～」研修会 ―― 14

子どもと家族と地域の命を守る減災防災事業の紹介

「親子ミニ防災教室」の開催

乳幼児がいる保護者を対象に、子育て支援センターや育児サークルなど、未就学児とその保護者が集まる場を会場にして、家庭での減災防災の備えについて学ぶ教室を18か所で開催しました。

「どうする?! 子育て世代への防災支援」研修会の開催

子育て支援者・防災士・災害ボランティアなど様々な立場の方にご参加いただいて、子育て世代への防災減災支援としてどのような取り組みを行っていったらよいかを考える研修会を開催しました。

減災防災の備え リーフレット「『その時』助かる!」の制作と配布

実際に災害が発生した際に命を守るためにどのような行動をとったらよいかを知らせ、身近において折々に見たり、災害時に行動の参考にしたりして、命を守ることが出来るカードサイズのリーフレットを制作し、配布しました。

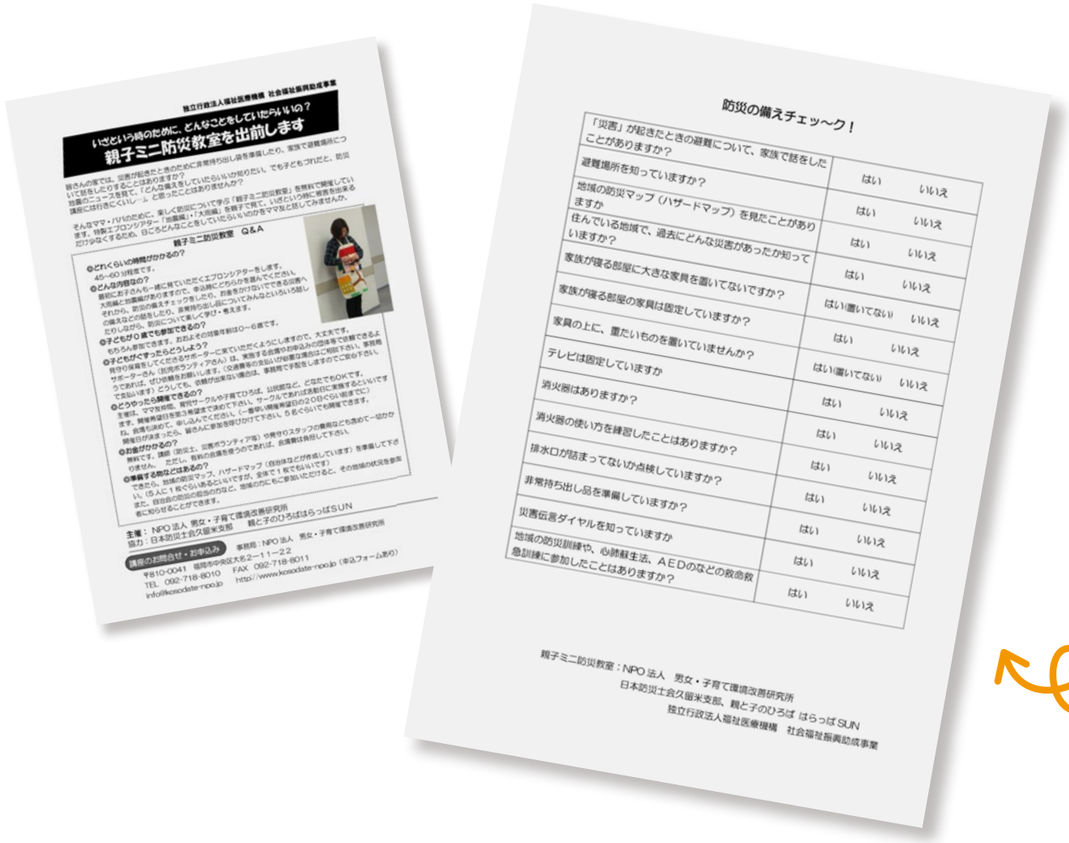
「親子ミニ防災教室」の開催

開催の目的

乳幼児がいる保護者を対象に、家庭での減災防災の備えについて学び、家庭での備えを行っていただくことを目的にしました。

開催者

育児サークル、子育て支援センター、社会福祉協議会、幼稚園保護者会、マンション管理組合が主体となって開催しました。
「防災教室を開催します」と広報したところもあれば、特に広報はせず、その日に子育て広場に来ていた方を対象に開催したところもあります。
前者は、減災防災について少しでも意識を持っている方が参加されましたが、後者は「子育て広場に遊びに来たら、たまたま防災についても話が聞けた」とそれほど（全く）意識していない方に対して、知っていただく機会となりました。



チェックシートはこちら

教室の流れ（60分間）

❶ エプロンシアター【地震編・大雨編】

親子一緒にエプロンシアターを見ます。（地震編、大雨編のどちらか）この後は、保護者を対象に進めていくので、遊びだしたりぐずったりした子どもは見守り保育スタッフが対応します。

❷ 防災の備えをチェック

各自でチェックをした後、チェック項目に沿って、具体的な方法をレクチャーします。また、地元のハザードマップを見て、災害が起こる可能性が高い場所や避難所を確認します。

❸ 非常持ち出し品にいれるものを考えよう

5人程度のグループに分かれて、非常持ち出し用リュックに「必ず入れておきたいもの」「余裕があったら入れたいもの」を話し合います。その後、入れておくといいもの・便利なもの、置き場所などについてレクチャーします。

教室で使用しているエプロンシアター

オリジナルで作成したエプロンシアターです。地震編と大雨編があります。

地震編

1

4人家族のあいちゃん。
お父さんは会社へ、
お兄ちゃんは学校へ
出かけました。

2

お母さんと家で
おやつを食べているとき

3

グラグラ、グラグラ 地震です。
テーブルの下に入って!

4

地震がおさまりました。
非常持ち出し品を持って、
避難所に行くことにしました。

5

避難所へ行く途中も、
危険な所はないか
よく見ながら避難します。

6

お父さんとお兄ちゃんも
避難所に来ました。

大雨編

1

まなちゃんとふくちゃんが
遊びに行くことになりました。

2

公園で遊んでいると、
黒い雲がやってきて
雨が降ってきました。

3

お母さんが公園に
お迎えに行くことにしました。

4

雨がどんどん降ってきたから、
足元に気をつけて!

5

水がこんなにあふれてきたわ。
上の階に避難しましょう。

6

こうして、水が引くのを
待ちました。

親子ミニ防災教室の様子

9月10日（水）大雨編

開催団体：福津市社会福祉協議会
開催場所：福津市健康福祉総合センター

9月26日（金）大雨編

開催団体：築上町子育て支援センター
開催場所：築上町児童館

9月27日（土）大雨編

開催団体：子育て連絡会　ほっとマム
開催場所：大川市はなむね交流館

10月7日（火）大雨編

開催団体：光貞市民センター
子育てサークル「ぐるんぱ」
開催場所：北九州市光貞市民センター

10月8日（水）大雨編

開催団体：うさぎ広場
開催場所：太宰府市国分ヶ丘集会場

10月16日（木）大雨編

開催団体：筑豊子育てネットワーク「かてて!」
開催場所：飯塚市庄内子育て支援センター

10月25日（土）地震編

開催団体：金島校区まちづくり振興会
開催場所：久留米市北野
ふれあい交流センター

10月31日（金）地震編

開催団体：大福幼稚園保護者会
開催場所：朝倉市大福幼稚園

11月18日（火）地震編

開催団体：にこにこ☆キッズ
開催場所：福岡市弥生公民館

12月18日（木）大雨編

開催団体：鳴水市民センター
「なるっ子ルーム」
開催場所：北九州市鳴水市民センター

1月8日（木）地震編

開催団体：京町校区すくすく子育て委員会
子育てサロン「歩っ歩ちゃん」
開催場所：久留米市出島集会所

1月23日（金）地震編

開催団体：添田地域子育て支援センター
開催場所：添田町児童館

1月29日（木）地震編

開催団体：親と子のひろば“はらっぱSUN”
開催場所：福岡市男女共同参画推進センター・アミカス

2月8日（日）地震編

開催団体：アンピール箱崎東Ⅱ管理組合
開催場所：福岡市アンピール箱崎東Ⅱ多目的ホール

2月23日（月）地震編

開催団体：育児サークルグーチョキパー
開催場所：福岡市草ケ江公民館

2月24日（火）大雨編

開催団体：みやま市社会福祉協議会
開催場所：みやま市高田総合保健福祉センターあたご苑

3月5日（木）地震編

開催団体：博多南子どもプラザ
開催場所：福岡市博多南子どもプラザ

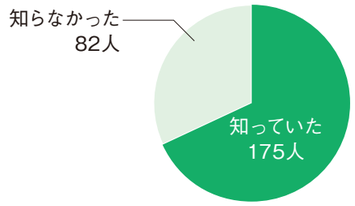
3月17日（火）大雨編

開催団体：飯塚子育て支援センター
開催場所：飯塚市飯塚子育て支援センター

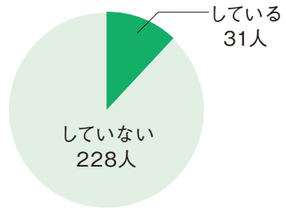
親子ミニ防災教室　参加者の声

①教室参加以前の状況

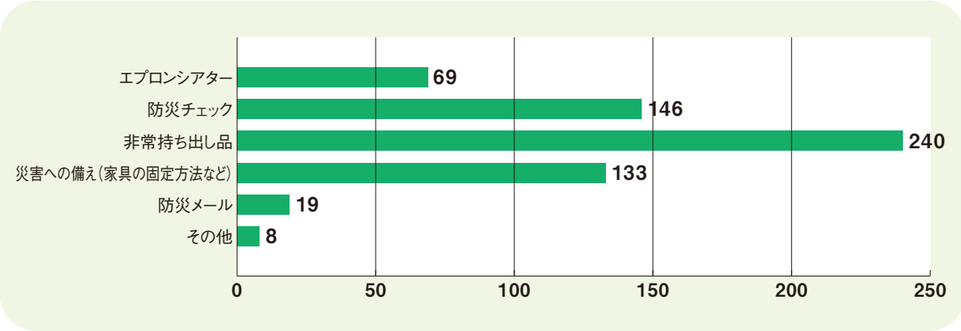
避難所を知っていたか（N=258）



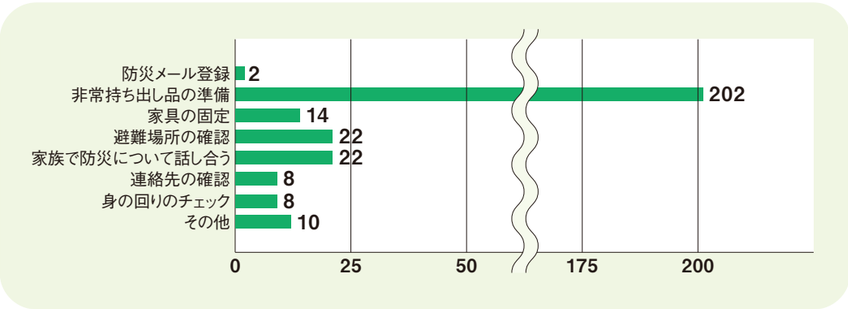
非常持ち出し品を準備しているか（N=258）



②教室に参加して参考になったもの、よかったもの（複数回答） N=285



③まずやってみたいと思ったこと（複数回答） N=255



【その他の内容】
- 今日もらったのに連絡先を記入して財布に入れて主人にも入れてもらう。
- 防災訓練に参加
- 家の中の整理
- 家具の移動
- 消火器の準備
- 心構えをもつ

④防災についてもっと聞いてみたいこと

1）日頃の準備
- 便利グッズ
- 昔、地元の災害がどういうのが起きたことがあるのか現在の予想災害など
- 子どもにどんなふうに災害避難方法を教えたらよいか
- AEDの使い方の実践
- いざということになったらパニックになると思うので精神面での防災

2）災害時・避難時
- 水害時対策
- 避難するタイミング
- 市が避難所を開けるタイミング
- 災害時、慌てずに行動できるには

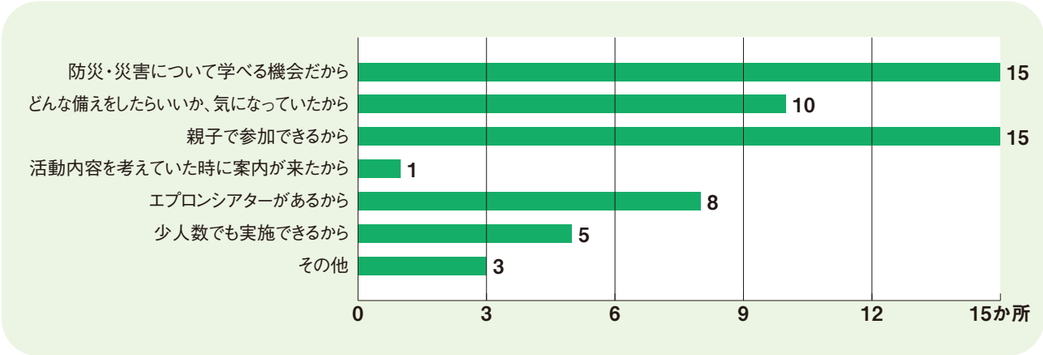
3）災害が起きた後
- 心のケア
- 子どものケア

親子ミニ防災教室　開催団体の声

開催団体には、2回アンケートを実施しました。（教室実施直後と、しばらくたってから）

■ 開催直後の声

①開催動機



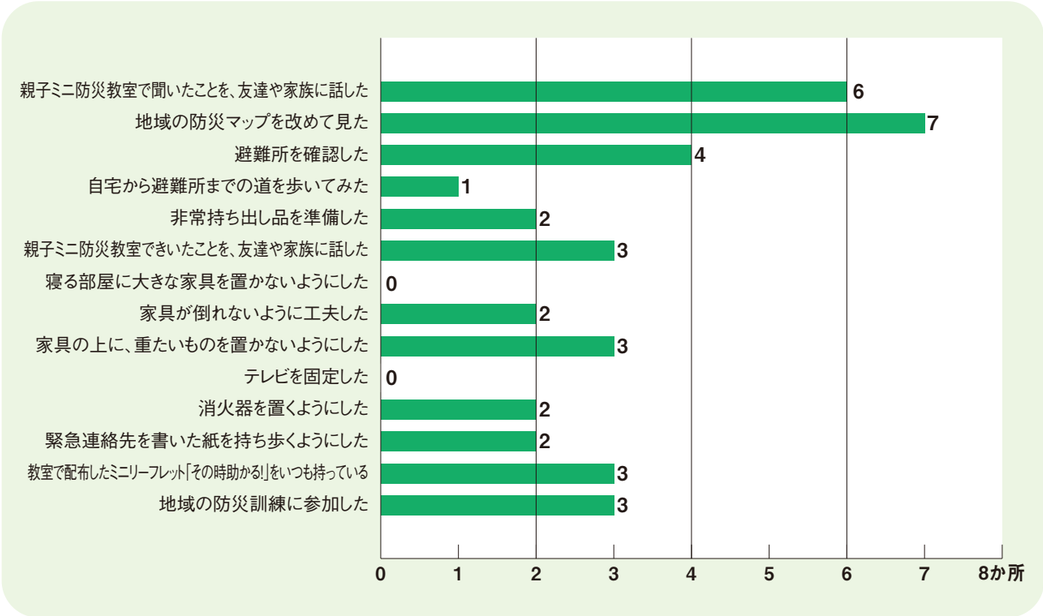
【その他の内容】 ● 無料で来ていただけるから。 ● 多くの人が集まる機会に防災についての意識を持ってもらうことを目的に実施。

②実施内容について

- 母親目線の内容になっていて参加者も具体的に防災への備えがイメージできたのではないかと感じました。地域とあまり接点がない方たちに対して啓発することができ、とても重要な機会だったと思いました。
- エプロンシアターは、小さな子どもにも災害が起きた時に何をしたらよいか、何を用意すべきかが理解できる内容になっていて良かったです。
- 子どもと一緒に参加できる講座は少ないので子どもを見守ってくださる方が来てくれるのは本当に助かります。
- 小さい子どもをもつお母さんが対象でしたが皆さん真剣な表情で耳を傾けていらっしゃいました。防災という言葉を耳にしても深く学んだり考えたりする機会がない様ですので1つ1つの説明が記憶に残ったのではないでしょうか。
- 身近な場所にどの様な危険な物があるのか、防災を考えるととても大変なイメージがありましたが、少しの工夫で出来ることもたくさんある事を知る事ができました。ただ逃げるだけではなく日頃から地域の危険を知っておく事の大切さも分りました。子どもの命を守る為にまずは親である自分の命も守らないといけないという事を改めて思うことができました。
- 住んでいる地域の振れやすさマップ、土砂災害マップ、防災マップなどがわかりとてもよかった。普段意識していない自分の地域がどんな所なのか知るきっかけになりました。

■ 開催してしばらくたってからの声

①教室に参加した方から、「こんなことをした」と聞いた事



②地域や開催施設、開催団体において、教室開催後に防災・減災に関して取り組みたいという話や具体的な取り組みがあったか。

- 津波に対する取り組みが、小学校、中学校と自治会で行われた。（避難訓練や体育館でのダンボールを使った避難所設営ワークショップなど）
- 消防署職員に来館してもらい、消火器の使用方法や火災の通報の訓練を依頼し、来館した親子と職員が参加して実施する。
- 定期的に子育てサークルでも避難訓練をしたらどうかという意見があった。

③2015年度に防災・減災について何か行いたいという計画があがっているか。

1）具体的に決まってきている

- 親子ミニ防災教室の実施
- 年間行事計画表に防災に関する行事（避難訓練等）を定期的に取り入れた。

2）話がでている

- 各自で防災の備えをしているか毎月確認し合う。
- 各自治会ごとに図上訓練を実施する。
- サークルメンバーが変わったり、定期的に話を聞くことが大切なので、年1回は防災または防犯の講座をお願いしたい。

減災防災の備えリーフレット「『その時』助かる！」の制作と配布

「避難勧告ってなに?」「竜巻注意報が出たけどどうしたらいいの?」災害が起きそうな「その時」、地震が起きた「その時」にどうしたらいいかをまとめたリーフレットを作成しました。
このリーフレットには、「緊急連絡先」を書く欄も設け、財布などいつも持ち歩いているものに入れておけるように、折りたたむとカードサイズになるようにしました。

地震が起きた！

揺れを感じたら

テーブルの下や物が落ちてこないところで、頭を守り、揺れがおさまるまで様子を見る。

屋外にいるとき…

看板などが落ちてきたり、ブロック塀が倒れてきたりしそうな場所じゃないか、周りを見る。

地下街にいる時

耐震構造になっているので、比較的安全。あわてずに、倒れてくるものが少ない壁側によって、揺れがおさまるまで様子を見る。

エレベーターに乗っている時

揺れを感じたら、非常用呼び出しボタンと全部の階のボタンを押して止まった階で降りる。

※避難する時にエレベーターは使わないこと

揺れがおさまったら

- 出口を確保するために玄関ドアをあける。
- 使用中のガス器具を消して、ガスの元栓を閉める。
- 電気製品の電源プラグを抜く。（電気が復旧した時に火事になる恐れがある）

地震が起きた！

もしもの時のために、いつも持っておこう！

「その時」助かる！

お財布や手帳、鞄の中に常備しよう！

これには、大雨や土砂くずれ、竜巻き、地震などの災害が起きそうな時・起きた時にどんな行動をしたらいいかを書いています。
日頃から、非常持ち出し品を準備したり、家の中や周りを点検したりして、災害が起きた時に「命」を守れるようにしましょう。

発行：NPO法人 男女・子育て環境改善研究所
（TEL092-718-8010）
協力：日本防災士会久留米支部、親と子のひろばはらっぱSUN
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

避難を呼びかけるお知らせの意味

- **避難準備情報**
  避難の準備をしましょう。お年寄りや小さい子どもがいる家庭は、早めに避難を始めましょう。
- **避難勧告**
  災害が発生する恐れがあります。避難しましょう。
- **避難指示**
  命の危険がせまっています。
  急いで避難をしてください。

緊急連絡先

避難場所

家族の集合場所

（実寸大）

土砂くずれ

こんなきざしがあったら、すぐに避難！

- 小石がバラバラおちてくる。
- がけから音がする。
- 地面にひび割れや変形が見える。
- 地下水やわき水が止まる。
  あるいはふき出す。
- 山鳴り、地鳴りがして、土臭いにおいがする。
- 立木の裂ける音や石がぶつかり合う音がする。
- 雨が降り続いているのに、川の水位が下がる。
- 川の水が急ににごったり、流木が混ざり始める。

避難する時に注意

- 避難所・避難場所の中には、浸水予想地域にあるために水害の時には避難できない所があります。
- 避難する時には、非常持ち出し品を持っていきましょう。

竜巻注意情報が出た！

竜巻が発生するきざし

- 低く黒い雲（積乱雲）が接近する。
- 雷鳴や雷光が見える。
- 急に冷たい風が吹く。
- 窓や壁に打ち付けるような強い雨や風。
- ひょうが降る。

家の中にいるのなら…

- 窓はもちろん、雨戸、シャッター、カーテンを閉めて、窓から離れる。
- 家の１階で中心部に近い、窓のない部屋に移動する。（トイレなど）
- 丈夫な机やテーブルの下に入って体を小さくして頭を守る。

屋外にいるのなら…

- 車庫、物置、プレハブの建物から離れる。
- コンクリート製など、頑丈な建物の中に入る。
- 逃げ込める建物がない時は、頑丈な建物の側にうずくまったり、溝やくぼみなどに伏せる。

（参考資料：内閣府・気象庁「竜巻から身を守ろう！」）

大雨が降り出した！

ゲリラ豪雨が降るきざし

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり雷光が見えたりする。
- ひやっとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨やひょうが降り出す。

屋外にいるのなら…

- 川や低い場所からすぐ離れる。
- アンダーパス（線路や高速道路の等の下をU字型にくぐって抜けるような道）は浸水の恐れが大きいので、近づかない。

内水氾濫（ないすいはんらん）に注意

大雨が降って、側溝などだけでは降った雨を流しきれなくなって、下水道や側溝から水があふれて、建物や土地・道路が水につかってしまうことを「内水氾濫（ないすいはんらん）」と言います。川の水が堤防を越えてあふれてしまう洪水よりも、内水氾濫の方が最近は起きやすくなっています。

子育て支援センターや児童館、
公民館などに配布しました。

「どうする?! 子育て世代への防災支援～東北被災地の子育て家族支援から学ぶ～」研修会

2014年11月8日開催

主催：特定非営利活動法人 男女・子育て環境改善研究所
共催：日本防災士会久留米支部、親と子のひろばはらっぱSUN

子育て支援者・防災士・災害ボランティアなど様々な立場の方にご参加いただいて、子育て世代への防災減災支援としてどのような取り組みを行っていったらよいかを考える研修会を開催しました。
当日は、講師として、東日本大震災発生時に、来館していた母子全員を無事に避難させ、その後は石巻や東松島、気仙沼、陸前高田など被災沿岸部を回って子育て家族を支援し、現在も取り組みを続けている、仙台市子育て支援センターのびすく仙台の伊藤仟佐子センター長をお迎えし、地震直後に必要とされた支援、それから3年半が過ぎて見えてきた問題点などをお話いただいた後、参加者全員で子育て世代への防災減災支援をどのように行うかの意見交流を行いました。

第1部　講演「東日本大震災後の子育て家族の状況と支援」

伊藤 仟佐子さん
（仙台市子育て支援センター のびすく仙台 センター長）

備えていたはずだったのに…

東日本大震災が起こったのは3月11日の14時46分でした。揺れは東京を越え、大阪まで及んだと聞いています。

私は25年くらい前に転勤が理由で仙台へ来ました。当時から宮城県は震度6以上の地震が来る確率が80%以上あるといわれていたので、私もいつ地震が来ても大丈夫という覚悟と準備がありました。ですが、実際に体験すると、その覚悟はなんだったんだろうって思いましたね。

震災発生時、20組くらいの親子がうちの施設に遊びに来ていました。託児室には5人の赤ちゃんを預かっていました。そして地震が起こったんですが、震度7の揺れはずっと続くわけじゃなく、立っていられないような揺れが来たと思ったら、次の瞬間には止まるんです。そして止まったなと思ったら揺れる。この繰り返しが何度もありました。恐怖で「死ぬかもしれない!」そう思いました。そんな精神状態でも避難訓練と同じように動けたのは、繰り返し繰り返し訓練を実施したおかげだと感じます。

揺れが始まり、大きく揺れ続けた7分間は、スタッフ同士でずっと声を掛け合い、何もない広場に親子を集めました。託児室は、部屋の真ん中にサークルを引き出して、5人の赤ちゃんをそこに集め、サークルの周りとスタッフが囲い込んで揺れから守りました。人ごとに役割を与えると、その人がいないと役割が欠けてしまうので、人ではなく、仕事をしている場所によってどう動くかを決めていました。

幸い、建物は無事でしたが、施設内の本棚などはすべて倒れていました。すべての家具をL型ピンで固定していましたし、天井から突っ張り棒で押さえていたにもかかわらずです。震度7という揺れは、これくらいの対策をしていても制御できないんですね。固定しているものがさらに倒れても大丈夫な配置を考えておかなければならないと思いましたね。

情報の遅れと感覚のズレ

その日は、来所していたすべての家族を見送り、市役所へ報告を終えてから、3時間かけて歩いて自宅へ帰りました。帰り着いたのは深夜。家には娘がいて、近所の人同士で声を掛け合って隣家の駐車場にストーブを運び、みんなで暖を取っていたことを聞きました。家の中はぐちゃぐちゃで寝る場所もなく、車の中で一晩明かしました。

津波のことを知ったのは、その夜の車のラジオでした。海岸線のある若林区に津波が来て、死体らしきものが見えているという内容。なぜかその時の私の感覚では、そんなに被害はないと思っていたので、流木なんかを見て勘違いしただけなのではと思っていました。そして、翌日の朝刊を見て愕然としました。すでに携帯の充電はなくなっていて、新聞とラジオだけが情報源だったので、詳細がわかったのはテレビの電波が回復した1週間も後でした。

のびすく仙台の再開～支援活動開始

翌日から手伝いに来てくれたスタッフもいて、施設内の片づけに取りかかりました。震災2日後には、沿岸部で被災した親子が「ここに来ればこども服があると聞いて」と来館されました。いくつか着替え用の服がありましたので、持ち帰って頂きました。（この後、全国各地から支援物資を送りたいとの連絡が入ってきました）

「のびすく仙台」を再開できる態勢まで整え、市役所からの要請もあったので、4日後には再開しました。スタッフも3人しかいないし、暖房も入らない厳しい寒さでだれも来ないと思っていたんですが、予想に反して、「子どもを遊ばせたかった」「余震が怖くて、自宅にいられなかった」と2組の親子がいらっしゃいました。

震災から9日後には完全に再開。NHKのニュースで取り上げていただくと、それを見たお母さんが大勢集まり、みんな口をそろえて「ニュースは死体が見つかったとか、どこかが壊れたとか暗い話題しかなかったけれど、このニュースで震災後初めて喜びを感じられてものすごく嬉しかった」って言ってくれたのです。市役所の担当課長に言われた「始められるところから始めるのが復興の第一歩」を実感した瞬間でした。

心の支援活動へ

震災後は、みんな一丸となって、一緒に困難を乗り越えました。ですが、3か月後ぐらいから、広場の雰囲気が変わってくるのがわかったんです。お母さんたちがイライラしているんですね。ある時を境に、自分の怒りがセーブできなくなった人が増えていきました。話を聞くと、やっぱりみんなストレスを溜めているみたいでした。

彼女たちは地震には遭いましたが、自分を被災者だとは思っていないのです。「被災者というのは、震災で家や大切な人を失うなど実質的な被害を受けた人のことであって、自分たちは被災者じゃない。実際は大変なことは数えきれないほどあるけど、被災者じゃない私たちが、簡単に大変だと言っちゃいけない。」と思っている、そんなストレスを抱えていることが、ここで初めてわかったんです。他にも、津波で家を失ったお姑さんと同居が始まり、自分の家にもかかわらず、自分の居場所を失ってしまった方も。仕方のないことだとわかっていても、早く出ていってほしいと思ってしまうことに、自己嫌悪している。そういう方がたくさんいましたので、気持ちを吐き出す機会を頻繁に設けて、2か月くらい続けていくと、少しずつ落ち着きを取り戻したようでした。

震災から5か月が過ぎたころ、自らも大きな被害を受けていながら、震災直後から休みなく仕事をしてきた支援者の疲れがピークに達していました。それは身体だけではなく、心の疲れもです。そこで、支援者のための合同研修会と交流会を開催しました。「保育士としてわが子の安否も確認できないまま、1週間仕事を続けた。わが子も守れない自分に腹が立った。」など、心の声が吐き出されました。

東松島市では、震災6か月後から女性のためのサロン「わたしじかん」をスタートしました。

11か月後には、福島から避難してきた母子のためのサロン「ママともサロン0123」を始めました。福島出身の先輩ママ、臨床心理士、保健師にも同席してもらうママたちのしゃべり場です。放射線、慣れない土地での子育ての不安、偏見や差別がつらいなどの話が出てきました。

現在もこの2つのサロンは続けていますが、石巻市でも女性のためのサロンを月1回程度開催したり、グリーフケア「陽だまりの会」のサポートなどを行っています。

女性リーダーと防災意識を高める

現在私たちは、女性の防災意識を高める活動や、女性のリーダーを育成する取り組みを進めています。避難所生活において、男性では気付かないことが多くあったからです。たとえば、避難所では着替える場所もないし、トイレも男女共用。男性にとって何も感じないことが、女性には負担になっていることも多いんです。また、化粧水や生理用品が欲しいと頼んでも、贅沢だと言われたり、プライバシーの確保もままならないという声もありました。

そんな状況に対して、女性たちが声を上げられなかった避難所が多くありましたので、私たちが声を上げていかなければならないと思いで取り組んでいます。

全国からの支援～受援力をつける

のびすく仙台には、ここを利用していて転勤のため引っ越して行ったママたちがいち早く支援物資を送ってくれました。そして、そのほかにもたくさんの支援物資が送られてきました。

私たちは、送られてきた支援物資はすべて開封し、汚れ等をチェックし、サイズ・男女別に仕分けをし、要望があった被災地に届けました。実は、送られてきた子ども服の中には、汚れたり破れたりというものもあったんです。私たちには、なんでも渡せばいいというのではなく、「もらって嬉しいものを渡したい」という思いがありました。ですから、支援をしたいという連絡をいただいたときに、「子ども服はできれば新品が欲しい」とお願いしたこともあります。

宮城にはボランティアの方もたくさんいらっしゃいました。本当にいろいろな方が来ていました。ここで問われたのが、「受援力」だったと思います。支援を受ける側は「していただく側だから何も言えない」ということではないと思います。「受援力」を培っておくことが大事ではないでしょうか。

小さな努力　大きな成果

今回の震災の犠牲者のほとんどは津波が原因で亡くなっています。逆に言うならば、それ以外の死亡者はそれほどいません。ということは、震度7の地震では人は簡単に死なないということなんです。

大切なのは、自分の身は自分で守るということ。津波の被害者の中には、自分だけは大丈夫だろうと思って避難活動を怠ったために亡くなった方も少なくないと聞いています。自分の命を最優先で行動することを心がけることが大切ですね。

また、この震災は特に日中の家族がバラバラの場所にいる時間帯に起こっていますので、見えない家族のことが心配でしょうがないという方が多かったはずです。震災があってからの連絡は難しいのでなおさらです。震災直後は携帯電話は通じません。唯一通話できる公衆電話には長蛇の列。不安は募るばかりですね。そうならないためにも、これから先も何が起こるかわからない世の中ですから、万が一の時に集まる避難場所や避難ルートを家族間で決めておかないといけません。あとは子どもが通う小学校や幼稚園・保育園が非常時にどんな対応をするのかを知っておく、これだけでも随分と違うはずです。

10年後、20年後も震災の傷跡は深く

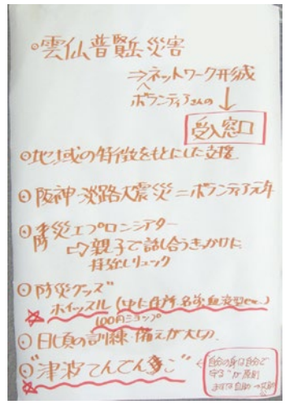
この震災で起こった問題は、まだたくさんあります。それはニュースで報じられているような、家宅や道路の崩壊などの表層的なものだけではありません。子どもを亡くした親の悲しみや、震災が引き起こした人間関係の崩壊こそ、本当に焦点を当てなければならない問題だと、私は考えます。

震災からすでに4年が経とうとしています。私たちは支援を始めた時から、活動は5年ぐらいじゃ終わらない、と思ってはいましたが、実際に活動を始めると、本当に5年くらいでは時間が全く足りないと感じています。

10年、20年という、より長い期間を見据えて動いていくつもりでいます。

第2部　グループトーク
「どう取り組むか！子育て世代への防災減災支援」

第2部では、参加者それぞれがどのような活動をしているか、その活動の中で子育て世代へどのような支援が必要と感じているかなどを話し合いました。

参加者の声

- 詳しく具体的なお話をうかがうことができとても参考になりました。
  特に“受援力”とても大切なキーワードだと思いました。心のケアの問題もとても難しく重要なことだと思いました。
  子育て、防災を通じて地域の中で本当に大きな役割を果たしましているのを感じました。
- 災害と女性。避難所運営と女性の視点が全く欠落していたことに気づきました。
- 多くの人が各自の立場で地域の防災に関心を持ちがんばっていらっしゃることがわかりとてもよかったと思います。
  繋がりが防災上とても重要キーワードになることを改めて感じました。
- 何故人々の意識から悲惨な災害の記憶が風化していくのか。心理的メカリズムについて今後考えたい。